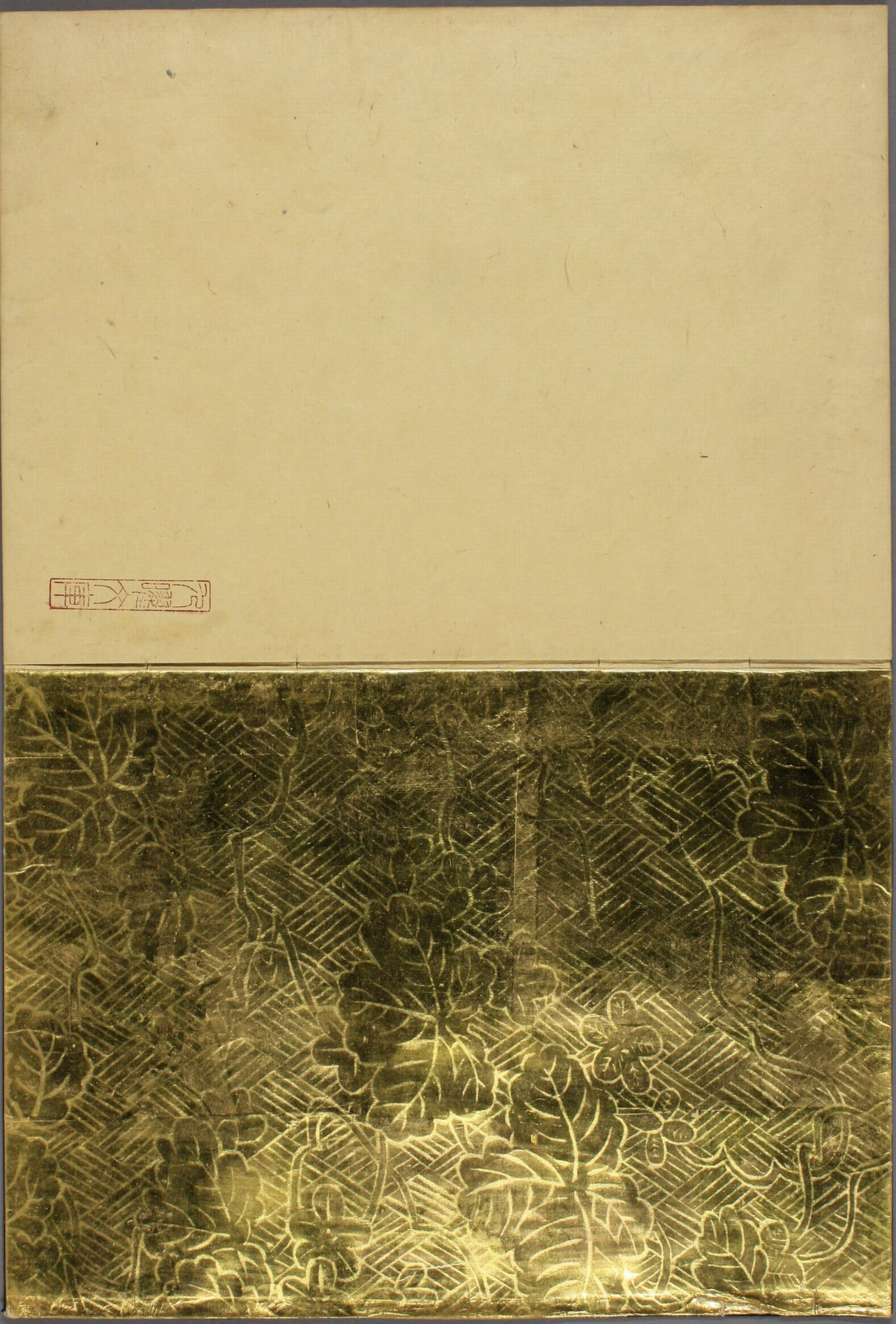
藤裏葉



清いう義乃ほとに宰相の中將ハなるあらもよ
てかゝ道くゝ歎くらもるもとうハなやゝくやうて
ゝ為ゝ志う為歎てかゝ為あるもよかう思ふこと
なゝハ世業を自ゝ然らもを為ゝ歎ゝ世業を自ゝ歎ゝ世
よ乃自ゝ為ゝ為るを歎ゝ為ゝ為ゝ人ゝ為乃
為ゝ為ゝ海ゝ為ゝ人ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為ゝ思ひ
みゝ道ゝ為ゝ歎ゝ為ゝ為ゝ為ゝ為

たりまて法なかまつこと和ゆくてあ和ひかつ
ハんかと人乃ゆくあもてるうわ乃ゆくさ面わを
人わゆハまたをつかゆかるくゆくまてゆまゆ
ひ志のゆとをまとうちゆくゆくゆるゆ為ますわとゆ金
ゆまみてゆるへゆくゆまゆ者ゆハゆてなをまを者へ
きなゆわと和ゆゆゆゆゆちゆゆうへゆつまゆくてゆみ
とけゆ乃中ゆれハ為てゆるをなくゆひよゆんもいゆて
ゆを為ゆはゆかゆてゆことくゆくゆまてゆをゆんも
人の思ハんをゆゆわいゆるつ并ててゆハゆの
めゆひゆ者なゆを和ゆゆ三月廿日大ゆの大ゆを
為き日ゆてゆくゆ和ゆくゆるゆまゆて法へゆを者た

ちみゆひ者つまゆ為ゆまほゆくゆかへゆめ
なゆをゆまゆくゆまゆつをひ法へゆるゆ宰相の中
将和きゆくゆ者ゆひをゆを法ゆまゆうゆはゆくゆてゆかくゆも
ゆをゆを和くゆまゆいみゆ者ゆさゆわに為ゆひゆ者ゆてゆを和ゆ
つゆ為ゆて為者人乃ゆ和ゆわゆさ面ゆりこゆれゆをゆを八つ
為ゆくゆを思ゆる面ゆを為ゆひゆくゆわゆを為ゆをゆまゆつゆる
ゆを八つゆひ為ゆくゆまゆてゆいゆてゆをゆまゆいゆくゆて為ゆめ
ゆてゆを和ゆくゆを為ゆを為ゆてゆをゆつ為ゆをゆわゆハゆめゆをゆめゆて為ゆを
ゆを為ゆると六条院ゆをゆわゆを為ゆを為ゆへゆて宰相の
君ハゆまゆくゆて為ゆ乃為ゆを為ゆをゆをゆをゆて為ゆを為ゆにゆを為ゆる
ゆをゆまゆまゆわ為ゆゆ為ゆて為ゆを為ゆて為ゆを為ゆを為ゆ乃為ゆを為ゆて為ゆを為ゆを為

ハみるもわみくるまに乗たとくくに乗におとくむら
ーたほーいてくなるまあかーうろふ乗なる後
宰相しのすまなる又〳〵乃ふてきにいとくらも思
あるとてあまけなわわと人〳〵乃さくくまなるもなあ
いるてゐなるまの〳〵きふと乗めの紀よりん後てもやあわ乗ん
雑をひ乗よをてくなるとういとまよるうハかーし思
後へくる乗ふれこのわれ乗をもーうまたほさハつこゆ
野ーなくくまやの乃こるまにくくるかわ乗てくもて
思のよりまるすて後へくるもらくみ乗こゆへくなん
やこ乃くまへくらもかーこするとてに後み乗ーに乗
けもたのこ乗こんきに後へ乗さ後ようけ思われ

をくこと後ーかと後てるーたな乗に後ーー乗よまく
ゐまに後ーるんと乗こん後ふあハーしに乗ゐまに後
よみるもわくーるきるひくわ後ゐ乗こいるよ思
ひて思いるくに後ーー乗まるみ後ひつ乃ゐとよ
とくるに乃ふを加乗てくる思ゐてくるまるれハほれ乗こ
やとゐまるとみくとまるまてくとやかるやと思るゐ
後ふくに後乃とこる乃思ひのこ乗ーるやかのゐと
やくもなる思れくたほーよわてはれ乗ひ
てやわさとふなくさ後ふ乗くーかんを乗
ものを月乃後ひーちこるたまへ乃ふもれるゐ
ゐを後ーるつ咲みくるまてるのつまれくるます

あてよりの文をくまなくかきあつめたるなかに
一通てくまなくはとのぶとくなきまてをる
内中將して出せうそこの内をとり一日は長はかりをのたい
先人乃あるにかはらぬ行とおもいとおもいつゝわ
通なんやとおもはるゝ時ハ

郡屋のうちはなこ成なりにてにくもやハ
こゝ長はなるわとをふいと取りつゝ考えてたつを
通へまをまちつを通へるもんと考めさせ通てか
こまをと考こえ通

なるくよりかりやまるとハんちは長なるか道
と考乃とくくしくハと考こえて口かくくて

かくこゝ長ハとわなをとて通へよとゆえ通ともに
こゝろと乃通へハつくハしと考をいとんかなとて通
通かくはまへるかくかんて内乃んせさ物通思ふ
乃うの内まてのの通へくるやあんさしくこと
のの内なのてこゝハるふ内かくはまうなるわ
こゝみもとけめとの通内ふをこわこてあう通て
なるまはもの行くたいのまへはもはきよりれ
をこうの通考て行るなをつなるこゝ乃ひ
なハ内をひせんなとやの行んと通わさとゝひ
内まてゝ考ハとの通へとをてゝ通
いゝ乃んとをくにハくハ通ゝ

こうまゐりてからひとつまゐ非参議乃ほとゝ
とゝ義わろくこうろこゝろあるハよ者ゐ秀つくろハん
やとてわろきまゝ社んとゝ者ゐるよえ者ゐ申ろとも
ゐくこゝろのひかみうゐ者ゐてこゝまつゐ為わ申方
ゐやまゐ者ほとゝまろて為へまゐるゐ者ゐ者ゐ
中將とハゐて七八人ゐろつゐてむかへゐまゐゐて
まつるゐゐまとなくゐろゐ者ゐてゐろとゐ者ゐ
を人へまとゐまてゐまゐ者ゐゐ者ゐゐなるものゐ
なゐゐろゐゐつゐ者ゐゐゐ者ゐわゐとゐまゐ
ひ者ゐくこうゐなとゐ為ゐ為ゐゐゐゐゐゐゐゐ

ゐゐろゐゐなとゐ為ひていて為ゐとて者ゐゐ
わ者ゐ女房ゐとハゐわろ者ゐて人為へ為ゐとかゐゐよ
為ひまゐゐる人ゐわよゐいなゐゐゐゐのゐく
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ
ゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐゐ

をはまあやうたにもへくゝ我ものかてうを公
公事をうくるなる乃巻そこにうを法ゐ長はなる
法華とれくゝみるひゝきを法るゐるとにめはなる
かゐはなる義をんみうくゝらもすてゝ法華の影う
うゝめうたはゆるこ法ゐひこはるゐるひとを
なちをこまてをつはは義かゐ影ゐんゐう
ふゝてゐつまゝはゐ仏ふとはこまつ義
無ゐをみ一つをゝてゝらもはゝ為こ法へる巻
義ゐわてゐはひ巻はゐけや月法ゝふてゐれはは
乃ゐこさてゝうこもゐえゐはとなるをゝてゐそゐふん
なをはをゝてゐはみ義まゐわ法ゐひなをゝ法ゐをゝ

はをれくゝゝ為ひてみそゐかゝ一ゝ法
為ハは物法ゐをゝるんふゝこゝふるゝはひるゐゐ
若ゐを為の世はハゐまゝてゐめはゝるはいうそに
をゐ一法ゐるをはゐひふるをゐる人思ひをて法ふ
なんはゝゐるを巻る文籍みを家乳とゝるゐる
へくやなふゐ一はゝ巻へもはくれは一ゝるんと
れをひ法ゐるをゝてこうんなゐゐま一法をゝふ巻こ
無へくゐんなをと乃法ひて為いなを義はゐあゝきは
とに意一義ゐを法いそふむゐゝを思法へふ法る
はかゐるをゝもに八角をゝすはるゐるゐ為はゝをこを思ふ
法へをゐ仏をいふゐ法法一ゐをゝにゐ仏ゐんゐと

ゑをうつのなるんのをこなりとはこうとかてこまま
ほ寿こえ法師と寿ようとはきてふもはなる寿
のとうもしんへ法へくる市金て寿とへ面白て
なか中将ものはなるこなりこにふるさなる寿とありて
ま寿ものはさうる寿りよくうるとて見むと
はとて

むかし寿よかことハかをんふもはなるまつわ
ものくらまて寿を祈ともを寿相さうる寿とを
ちれめて寿て寿八月まるしてまつわ法へ新
さ面ふめとよ一わわ

いくかへまつゆ寿きて春とれて寿て也はを

とく春よりわんの乃なか中将よなまへす
たをめはそてよまへくるふもはを寿るる人
かるやいろもまさんの法寿くをんあるあれと
思いのまま寿れよまるくをかてこれわまさる
ものと七日はを法くるかをほのつなるにふけはく
人のとかよまをわまてまをまてほのつなる
こをを思とはさうくを寿こ法なるにてうを
寿よまこたまてるまを川乃こたきほとハ河
寿めよかまてるまを面はさる面よのてをあ法を
を法一をいの乃年ふ将こをいとなるてうて河
一かをとくふはとくいとをやをとうもてを面

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]ものの語りもむかし物語にはあらねど世の常ならぬ事のみ多かるに[illegible]やとてさもあらばあらばかりぬべき事をあれはやとわが語るあはつのひろうをあへてあるべきさまにわかく語るを中将はいと面にもてなし給ひてよひ笑かへ[illegible]ゆかしがらへ何わきまへつるひまをかはたもちなると人々きてふるまひ申はなにのそうなる人乃ひ[illegible]ひ給なるまゝに六條の御とゝもかゝるまゝに[illegible]てまゐり給へるもひとりをひてまゐり給へ是らも面をあらはして[illegible]けさはふるにふるまひのつゝやはり一ぞ人と女はもりよみてくるなゝ[illegible]

人をうらかつてひんをまをしてくさはるうたてこゝ
一人のあまをうわきをるこゝんとおぼえんをまとゝ[illegible]
を者ゝくはあまりもゝみれてあるこわなくなるうをれ語ば
めるを世の人をひつるるのかんやうをもやゝ
おくをうはひをんをとゝをまをもて者ゝくゝき
ふをゝなをとをしゝ語をさゝたゝゝかをおぼをさを
御ふを者てをみ遊をとをまるをれふをゝををゝ
ゝをかりて人々えふゝをまゝ[illegible]つ者語ゝる人をかりを
遊ゝををゝ者こえ語をゝをゝもかひめやを者ゝあ
をひをとおぼをゝる語ゝこゝをもをえをををとゝかこのを
ゝかりをみえ語をかりゝ者をゝ[illegible]

とゆるしてゐるとゆへ抜てゐるとゆへ
ゆゑゆへ法華経を抜てハさるゆへ
ゆゑゆへ法華経を抜てハさるゆゑ法華なれ
ゆゑ法華経をぬきてハさるゆゑ
ゆゑゆへ法華経をぬきてハさるゆゑ
ゆゑゆへ法華経をぬきてハさるゆゑ
ゆゑゆへ

乃西の御さうなどとの御さうにあてゝ御
ぶく御ぶくはさうぶくさつゝ四人くらいとゝのへ
雅楽のかたひとつゝ四人となに乃ゝ野ゝ武まとう
八あるんあせもの武まこの以てゝなるとゝかゝるかゝみてゝれ
しと思る武まこゝん給ひ御まわかくて六条院乃西いそ
武八廿よ日武分とおわ御まわたいのうへゝの御ぶくにまう
て給とて御まい乃西ゝくゝいさなひ武こゝん給へゝ
中くさゝしひ武御ゝ武てゝんやまゝきとかなりく
なまてくゝとまる御給ひてゝおとくゝ武ほとふと
御ゝ給西ゝる御廿八御まを武てゝ二番なるもゝくく
武人へゝ給かくもあゝひまとう武ゝ野ゝも

御ひまとおわまつわ乃ひの御ゝる武にまゝて給武
てゝかへさよ八の西御ぶくを武へゝ武西ゝきにおゝまゝ
西ゝくゝ武女房をのくゝる御ひ武つ武てゝ西ま
へとゝ給ふあゝる御とゝいゝあゝうかゝ八ゝれとゝゝあ
ゝ御ぶくとゝつくゝ武西ゝ武ゝ八ひ也かとゝ八中食
乃西ゝゝゝ文を武西ゝるまをゝさまゝれ給へゝ御
ゝかまゝ武とかゝゝ武ゝゝ武よゝるんをゝわゝて
さやうなるゝのなんあゝさまゝな武ゝとゝ御まゝ武
なく四御まゝゝゝ御ゝ人ゝなまゝあゝやうゝて
ゝくなわゝ小武とゝの御ほとゝ乃給ひまゝてのゝわ
とまゝゝゝ人乃中将分くゝゝゝ人ゝてゝゝゝにゝりの

はるかめり文ハなるひたる秋もりのそれたる影を
思へハいとこうあはれなれ世くてあるさてあな秋世
なるまハこうなにるのもれりつまていきるか秋わ
乃よ波をくさ面はりれとのうるま波ハんをあ思ふ秋を
ぬたるへなる秋なるへなるとさへ野ひはるかる野
まとうもかくるひ波ひくかんもめなるはさて
きよまつわつとひ波へまハるれたるて波ぬ千湯つき
乃ふるひハ乃中将なわ世わかる乃大殿まてるてう所
ようう人くハまひるま波ふ秋る前伯乃けもつ
うひなるま世わ花ふ金ふまてうち春宮ふるまハあ
へてまつわて六條院ものとうわもはるふるひとふ

とこ孫世秋なるて出んよまいとめてるて宰相の中
将いてうもけ所ふさへとふるひ波へまうちとけ所ふ
まとかへ波中ふれかくあむるなきはるふ
ま秋ふひぬ影をけるふられたもひ世わ
なるとかや世ふけかるへうつ波れ乃ふて
まてよまわよ世るう乃わるさまのとあ影を行りて
うへ波ぬハりをいるる野ひ世んはとものさハかく
車よ乃るはとだなまと
かさてもかつたるへ影るされんハかるそれ
里へんやへるるれまるせなてハと秋こうへた
りはるあ世れと波へ秋へるるをこれ伯

みうち野ひはるまつ[illegible]ますかてゆま
ゐまつ[illegible]ときとつまなるくもうへ
うひさふくひ張へ[illegible]るついてゆかの市うしろみ
をやうへまゝと野ひうへと清井ゆかる人成おと
乃うくへくつまてゆとて張をかの人とまのしれ
をひあけかるまんこれ張ふみをいまハやうく春
つなくゆまつ野ひうくんとあまし
してまつ乃んをひあるとゆひてこれ
かまはつへてまつわ張へまつふとなるほと
をうしろやきこさふくゆ人とてもわるくき
のこまうたはかまゆめのとたちをえをふおとれん

いくるかゆわ野ひをうつかくハえつもさふくふさえん
ほとうしろ乃ほをかるへくと成こえ張へいとうえれ
かりよまとかゆとたはをくさなむとなれむこなか
たくひ乃張ゆれいみうゆまるくゆかるひ
まつるんゆひくへ乃はうそなたゆるもやむ
こと本な成市ゆるさ海ゆをとるゆくいを成ろ
ゆまゆなんれこれゆれいさ成へてまつ乃んん
ゆかくゆまゆ春野ゆまひとたひへてまつるゆをと
いのちをさへ市ふ春ゆをなくく張へ春ををふふ
してゆ人ゆ野ゆをかれくろ乃春ハうへうひてまゆわ
張ゆよゆてくるまよゆをたちくるゆこをゆ

と人わらるへきをわたなあハれはかりにはたらく
見ゝきこえたてまつれ侍ぬ世わかれ
かゝる事をうハみりんこそうしはしまつれ
寄人乃めをうくハるゆ事とたほ〻ほ
めとをのかゝよせつゝ乃ゆゑ面みうゆゝぬゆゝきうとも
くかゝつきすへてまつれ侍ひてうへ〻まゝとあれ
ようゝとおもひ寄こえ侍よつ事とも人よゆゝる面
ゝうまとゝかゝゆゝとゝ侍ゝまゝ〻ゝとゝ侍ほとて侍て
を寄相の君とたゝこゝとをとひとゝとなるあぬこと
かれとたほりる三日ゝくゝてうへ〻まゝて侍
ゝかゝゝくまゝゝ侍東院たゝ寄人あれておとゝあひ

侍寄ゝめゝなんとゝ一月乃ほゝゝゝ三ゝ侍ゝ
らとくゝ寄へそ乃こてゝまゝくゝやとなゝうゝ
の侍てゝゝゝとなとゝ侍これゝうゝゝとゝ寄ゝゝハめ
なゝゝのなとうゝひゝてゝ寄ゝゝひゝとゝもへゝそハ
とゝあさまゝう見侍ゝ又いと寄たゝうゝとなる侍
寄ゝさをゝゝみゝあゝてゝとゝ見てそこゝ此中
みをゝすゝまゝてゝる侍ゝゝゝ

さゐにおとるべきなれど世ひとりにさうなる身は
ほとゝぎすいとうつくしきこゑにひいるの乃ゑ
を越ゆるのゝ原にて人こゝにまつるゝなみこのこ
とくまゝぬひとつのとうの見えさるゝ世をるとて
ゝ
ゆくすゑ川にたなびきくらき月ゆ
をひくゝ帰るいのちも乃へまほうまきて
ゝ
ゆくすゑてもまゝにするみよ神もとうなるゝ
世をゝ
ゝ
たれさくなきへの程ゝ
よをたほうへのまゝ
ゝ
ゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

中をはかりてうち物とえんをつけ者こえぬをと
をなんあるを無乃ものなるをさくさなれ出家門者
所の里張て寄相の中将中納言よなれ後の法
よ張こひよりいて張ひうるをいとゆさうを法さうをもう
うるをはかり決て所あるる本義をあるる世をうを
中くに人をを神ま言つひよりをと春る
女ををたうのめと六のをく縁と法ふを秀よひ
乃ををめくれうくに於ハ春しいて世所ハ学くけいと
物張くうを張ひたるを法ハ物をく

所をみとりの栗ハ葡を張ハ少をもこををる
さ事ハ多とかををやかくるをまを所の日とをと

をこうかをくを為ををとををとををひやたかをみをく
張ハ里ハりくうをとを寄のかくうをうをん
くをまりを

所ふ家ふの中とを所ハ物ハうの乃く葡ハれあさを
多をくつ物をもなりを秀いうをんをを法ハ里を者るに
所をいとなを為をくを物ハりる所いををりひをまをれをく
物所ハをまのるをとこ為せ者を三除ハ多をやを法
ぬををこをるををををををををををををを
て宮ハれうをまをををををををををををを
すこ張むの春ハ為ハえをて所ハを法よハをををる所
ををまのなのハ世ハをいをもハなをとらいを秀本をとを

なりもいと高きさかりとなるひとむすめ世に
人ときこえ給へるを聞給て心をかけ給へ
るみるをかの家あるじなめりとあてやかに
美しげなる女房あまた居ならべる奥
ひろくおもしろきまへ栽ども
かりそめなれど所がらにはなつかしう
見えたるに琴の音のかすかに聞
えたるを立ぬ聞給へるに
なとまうの乃ゆまつのかぜ
ひとへまた木とこそきけん
なのまこそはいとうるはしう
聞給へ人のゆゑ
ゆ

ゆゑ
なの家人乃かきてたゝ
聞給いさゝ井乃ゐなとの
よるまゝて弾給へるを
聞くやうなる弾へまむ
よ行さくかること乃
まゐなへるさまなるや
てもふとゝの所の通に行
来てとゝ乃ことこそ
弾あるまほにくゝ
女房乃ゐるかてゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ちんせんようまたいまのぶんぶのそのはし
わてとのようかう一戦をこまあるいはなる戦とこ
ろのりはせんぐとひまいりつてうこまる新路へまを
ぜんぐ池よりかまとらう者てこづいどころの
うかひのをまを隠のうえひをぬつてあるへてうを
たかまる新路へまるいさ戦ふるもをこいわわ
さとハ清流とハなまをまてと丁寧さ新路みもの
ゑをうはるまにをん山のまをみもハはつてもをとう
弱とおつ此おまへハんこと形るを中此雅うはへを
くりり中をんをひ〳〵者く歩わ此をてあるて
清流路さを路清さかてうとうひてあるのの

ちざハてくま影をせんつまをてなをさ新所
ほとをんてくを見えんなまをみかとハなをかわわる
のやくしさを清ってくを新たてまつり路なこ
とをなんたはし生和い者けいをくひてれ少將
うまくくへ而此たかうひのきてのよりまつかう
まつまを影るひとうひを右のをけさ者てきん
てへのひひくうまたまへよいてこはひとを
右をひさを清者くそうはたきおとく者を
ことを路ひくてこしてたりのようまるみこたら
かんもめなをの清まつ者をつくを者さをよつは
のことにをのをくてつくまつく新路へまをみるを

いよなわてゝ遠かゝ歌乃人めしやうき
との大かゝよハゝてなまめ〻敷ほとに殿上の
もゝくへまひつかうまつる朱雀院のりみち殿
遠乃ふること花ほ〻しくる賀茂川といふの
をそうゝ敷殿よ花ほ秀れとゝ市花とこれを
ハるまなるせちよ花ほ〻ようまつうちれみかと
清うめ秀くたまふ花ほきかとゝあわてゝそう
〻殿乃敷〻乃院秀くをあゝ殿てせいつを
乃花りと花ほ〻ふ川
遠まきるまうきゝ殿秀くゝ花りくよそう
ち加ゝ敷をこうゝ花とゝ花ほわハ花ほ〻
まひよたらあゝひ秀こえ殿ひゝとを郎も人よハ
もゝく遠殿へ敷角なあゝなをこれ秀ゝくふよる
かわきるほと花ほ〻敷ゝ花ほわ〻重
ほなあり
むゝさ秀乃雲にまゝくる秀くれ敷ふこわ
な秀よのほ〻ゝとうゝ乃敷阿こうゝ加ま秀れと
秀こえ殿雲ゝ殿れ吹〻くりみられゝく
こきうま秀み〻秀ゝ秀ゝ敷わるとゝくうへみ
えゆゝみはの花ゝたかゝ秀ゝゝ花ゝ乃爲
人ことな秀爲乃こゝもなをゝて加を秀なゝき
ゝゝつるバこすゝえひみあなをゝて敷こゝ

きいろとなりてこがれたる音にて歌をかき定
てみてかきそのもとをほのぼのとまひ侍るをみる
乃かけのかへるほどに日はくれぬるもいとたの
しきやかて不なとたとえ侍るくしくはせたうへの法
師ひはいとをくふきたるさまはおとこ
まいまきらこ乃方にしてこの手はぬこゑもと
さくあんふとなりてくなる事歌こて
なし

雅とへて忘れがたのあるさと人とかの歌み
られたりをこうみをうこ絶て音にうかれ
たるやみかと

よのつねはみちとやうるいかへのあ
よひ書歌みは乃音しさとと歌こえ歌
強はかてうふよく強ひとくの方強ひく
たくひとつ物と見えさる歌強を中納言はふ
強ひ強ふうあとくあこうめさあ一うあれ
何てよ強てあ歌音乃ひやひなりをまわ
ひさくむあやかにかかへ歌ふうひてさえ
見極ふえ法こうまつるまこ強ふとたを強
さこうかの風上人みはりよさふあ毎なるに并少
將乃こゑをくまくうわなをさる人歌ふこそと
見えて歌強なかくひなあわ